

◎語 學

二〇〇三年・二〇〇四年の學界展望語學部門は、京都大學大學院文學研究科中國語學中國文學研究室が擔當する。データ申告・業績送付にご協力いただいた會員・非會員の方々、國內の書籍出版に關する情報をお恵まれた東方書店、二〇〇一年・二〇〇二年語學部門擔當の経験を踏まえて詳細な申し送り文書を御提供くださった東北大學大學院文學研究科中國語學中國文學研究室、文獻調査にご協力いただいた各圖書館に對して、深い感謝の意をささげる。特に國立國會圖書館NDL-OAPACからは多大の恩恵を蒙った。本研究室の大學院生は、全て文學を専門としているにもかかわらず、熱心に本部門の調査・入力作業を分擔してくれた。目録はすべて大學院生等の調査・入力によって作成されている。

目録作成の基準は以下のとおりとした。  
一、採録範圍は、二〇〇三年一月から十二月までに日本國內で刊行された文獻とする。ただし、二〇〇二年刊行の文獻が第五十五集學界展望に漏れていた場合は、適宜補った。これら以外に、日本國內在住の研究者の代表的論文が海外の學術誌に掲載されている例も少なくないこと、に注意せねばならない。

- 二、目録の分類は、總記、文字・訓詁、音韻、語彙、語法、方言、教育・學習とする。
- 三、各分類内の配列は、著者・編者・譯者氏名の五十音順による。

各種試験問題集は、研究動向の紹介を主目的とする學界展望の趣旨にかながみて、データに含めなかった。また、現代語教科書が教育研究業績として高い價值を有することは特に強調されねばならないが、出版されたすべてを本誌に採録する必要があるか否かは、これまでも議論があった。今回、日本中國語學會常任理事の方々、および教育に實績のある一部研究者のご意向もおたずねした上で、出版委員會において協議した結果、次號掲載の二〇〇四年論著目録以降、現代語教科書の一律・網羅的採録という從來の方針は踏襲しないこととした。

單行本

一、總記

|                          |                                |         |
|--------------------------|--------------------------------|---------|
| 亞細亞大學<br>ことわざ比較研究プロジェクト編 | 捕らぬ狸は皮算用？<br>世界14言語・動物ことわざワールド | 白帝社     |
| 王 希傑著<br>加藤 阿幸・許山秀樹譯     | これが漢語だ<br>希傑言語文化隨筆集            | 白帝社     |
| 落合守和編                    | 清民語料(二)                        | 清民語料研究會 |
| 落合守和編                    | 清民語料(三)                        | 清民語料研究會 |
| 角田 實                     | 日本語・英語對照生活會話ノート                | 三修社     |

學界展望(語學)(二〇〇三年一月~十二月)

|               |                        |                               |
|---------------|------------------------|-------------------------------|
| 關西大學文學部中國語學科  | 文化事象としての中國             | 關西大學出版部(二〇〇二年)                |
| 木津 祐子         | 琉球を臨界面とする境界性中國語の形成について | 平成13~14年度科學研究費基礎研究C(2)研究結果報告書 |
| 江 麗臨          | 日中常用語早引き辭典             | 明日香出版社                        |
| 精密測定技術振興財團編   | 日英佛獨中・5カ國語測定技術用語辭典     | 日刊工業新聞社                       |
| 戰 慶勝          | 中國語の姿・日本語の姿            | 高城書房                          |
| 蘇文山監修 王萍「ほか」編 | ZoM「アクセス」中日中辭典         | 三修社                           |
| 蘇文山監修 王萍「ほか」編 | ZoM「アクセス」中辭典           | 三修社                           |
| 蘇文山監修 王萍「ほか」編 | ZoM「アクセス」日中辭典          | 三修社                           |
| 孫 蒙・王曙光編      | 實用 中日日中辭典              | 隆美出版                          |
| 「中國語の環」編集室編   | 中國語の環 總集I              | 日本中國語檢定協會                     |
| 「中國語の環」編集室編   | 中國語の環 總集II             | 日本中國語檢定協會                     |
| 北京商務印書館・小學館編  | 大活字版 中日・日中辭典(全2卷)      | 小學館                           |

本林 教衡 新日漢成語諺語辭典(ピン音・用語解説付)「改訂版」 現代中國語學院 出版部

松浦 友久 中國詩文の言語學 研文出版

松尾 善弘 漢字・漢語・漢文論 白帝社

松岡 引泰・松岡里枝子 中國故事を英語であそぶ 篠崎書林

小倉玲子繪 中日成語辭典 美好翻譯社

依藤醇ほか 中日辭典 第2版 小學館

呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監譯 中國語文法用例辭典 東方書店

二、文學・訓詁

阿辻 哲次 漢字の知識百科 三省堂

阿辻 哲次 漢字のはなし 岩波書店

阿辻 哲次 漢字の知恵 筑摩書房

石川 九楊 文字 創刊準備號 II 文字 創刊準備號 ミネルヴァ書房

大島 正二 漢字と中國人 文化史をよみとく 岩波書店

洪 誠著 森賀一恵・橋本秀美譯 訓詁學講義 中國古語の讀み方 アルヒーフ/ずさわ書店發賣

子安 宣邦 漢字論…不可避の他者 岩波書店

城南 山人 古代文字字典 別卷 古文編 マール社

白川 靜 白川靜著作集 別卷 說文新義7 平凡社

白川 靜 白川靜著作集 別卷 說文新義8 平凡社

白川 靜 白川靜 桂東雜記 1 平凡社

白川 靜 漢字の世界 1 中國文化の原點 平凡社

白川 靜 漢字の世界 2 中國文化の原點 平凡社

白川 靜 常用字解 平凡社

白川 靜 白川靜 文字講話 2 平凡社

白川 靜 白川靜 文字講話 3 平凡社

納村 公子 もっと知ろうよ! 中國1 漢字ってどこからきたの 汐文社

福田 哲之 文字の發見が歴史をゆるがす! 20世紀中國出土文字資料の證言 二玄社

藤井(宮西) 久美子 近現代中國における言語政策 文字改革を中心にして 三元社

三、音韻

坂井健一編 宋本「廣韻」全譯 第8分冊(流攝) 汲古書院

四、語彙

朱 京偉 近代日中新語の創出と交流 人文科學と自然科學の専門語を中心に 白帝社

吳 邦富・梅編 日・中・英企業・ブランド名辭典 日本經濟新聞社

俞 長安・文學編 工業用日・中英單語辭典 オートメレビュー社

李 任 漢英語源比較研究 藝林書房

五、語法

王 學群 現代日本語における否定文の研究 中國語との對照比較を視野に入れて 日本僑報社

六、方言

秋谷 裕幸 吳語處衢方言(西北片)古音構擬 好文出版

太田 巧齋  
新編『中國方言志』所  
録方言百録・附  
方言專志目錄

平成13～15年度  
研究(B)費基礎  
研究報告『歴史  
文獻データと野  
外データ』の綜  
合を指した漢語  
方言史研究(1)

太田 裕齋  
吳語蘭溪東陽方言  
調査報告

平成13～15年度  
研究(B)費基礎  
研究報告『歴史  
文獻データと野  
外データ』の綜  
合を指した漢語  
方言史研究(2)

瀬戸口 律子  
學官話全譯 琉球  
官話課本研究

榕樹書林

中嶋 幹起  
海南島方言基礎語  
彙集

東京外國語大學  
アジア・アフリ  
カ言語文化研究  
所 不二出版  
(二〇〇二年)

古屋 昭弘  
烏金寶卷に見る民  
國初期の浙東吳語

影印注釋『烏金  
寶卷』

村上 之伸  
『廈英大辭典』に  
見られる閩南語下  
位方言の分析

平成13～14年度  
研究(B)費若手  
科學研究費成  
果報告書

林 璋・佐々  
木 勳人・  
徐 萍飛  
東南方言比較文法  
研究―寧波語・福  
州語・廈門語の分  
析―

好文出版 (二〇  
〇二年)

七、教育・學習

相原 茂  
發音の基礎から學  
ぶ中國語(CDROM  
3枚付)

朝日出版社

相原 茂  
相原先生の課外授  
業 你好中國語  
講談社

相原 茂  
國民的中國語教本  
(CD2枚付)  
朝日出版社

王 秋月久美子  
すぐ役立つ!日常  
會話の中國語單語  
2000  
實務教育出版

淺山 友貴  
らくらく旅の臺灣  
の中國語  
三修社

麻生晴一郎  
旅の指さし會話帳  
45北京 中國語・  
北京語  
情報センター出  
版局

荒川 清秀  
中國見たり聞いた  
り15章  
光生館

荒川 清秀  
簡明・中文テキス  
ト  
同學社

荒屋 勤・  
尹 景 春  
らくらくマスター  
中國語(CD付)  
郁文堂

池田 巧・  
千島英一 監  
ケイション 發音・  
學習法編(CD付)  
アルク

伊藤 まみ  
旅の指さし會話帳  
第2版 香港 廣東語  
情報センター出  
版局

井上貴仁・  
李 彦學  
中國語中級會話テ  
キスト 悠遊北京  
白帝社

上野 恵司  
CDブック 中國  
成語故事 やさし  
い讀解と應用練習  
標準中國語 基礎  
編(CD付)  
白帝社

上野 恵司  
CDブック 中國  
語表現の基礎・ポ  
イント88  
NHK出版

宇澄 美香  
2泊3日の中國語  
會話  
三修社

榎本 英雄  
中文大世界 大學  
生のための中國語  
中級テキスト(CD  
D付)  
日中通信社

王 曙光  
CD付 やさしく  
て超べんり!生  
産現場でよく使う  
中國語  
中經出版

王 保東  
初歩から始める中  
國語  
駿河臺出版社

大内田三郎  
CDブック 樂し  
く學ぶ中國笑話選  
(CD2枚付)  
NHK出版

小川 郁夫  
リズムで覚える中  
國語II  
白帝社

小川泰生・  
張 健・  
富永 一登  
違いがわかる 中  
國語の類語表現  
白帝社

石倉 佳史・  
片野 眞理  
食べる指さし會話  
帳4 臺灣(臺灣  
&中華料理)  
情報センター出  
版局

|                        |                                  |           |                         |                                 |        |                          |                                   |         |
|------------------------|----------------------------------|-----------|-------------------------|---------------------------------|--------|--------------------------|-----------------------------------|---------|
| 川原 祥史                  | 今すぐ書ける中国語<br>手紙・FAX・ROM付)        | 東進ブックス    | 小道 迷子<br>渡邊 夢中<br>豊澤 監修 | 小道迷子の中国語<br>に夢中 迷上中国語           | 三修社    | 蘇水・山内智恵美<br>黒坂 満輝        | 中国語テキスト<br>作文の達人                  | 白帝社     |
| 木村 英樹・楊凱榮・張麗群・吉川 雅之    | 現代漢語基礎                           | 白帝社       | 坂口 輝子                   | 初めてのトラベル<br>中国語會話 英譯            | 土屋書店   | 造事務所編<br>造事務所編           | 3日でマスター!<br>中国人と筆談する<br>本         | 大泉書店    |
| 木村 英樹・相原 茂・中川 正之・杉村 博文 | 新版 中国語入門<br>Q&A 101              | 大修館書店     | 佐藤嘉江子                   | 女は中国語でよみがえる?<br>勉強編             | はまの出版  | 高橋繪里子                    | 話してみたい中国語<br>(CD付)                | ナツメ社    |
| 史 恒夫・日下 形風             | ちよつとまじめに中国語                      | 同學社       | 讚井 唯允                   | 着實にまなぶ中国語<br>基礎固め編              | 朝日出版社  | 田中 則明                    | 慣用句 使って楽しい!<br>中国語會話<br>(CD付)     | チャイナワーク |
| 窪田 守弘                  | 映畫でチャイニーズ<br>中国映畫30本<br>+チャイニーズ  | 南雲堂フェニックス | 三野 昭一                   | よくわかる中国語<br>文法(CD付)             | 白帝社    | 田中 則明                    | これ以上解り易く<br>出来ない!<br>中国語<br>(CD付) | チャイナワーク |
| 岡 悦・廣 今日子              | らくらく旅の上海語                        | 三修社       | 徐 送迎                    | 新世紀の中国語<br>文法(CD付)              | 駿河臺出版社 | 田中 則明                    | 知れば知る程面白い!<br>中国語(CD付)            | チャイナワーク |
| 吳 念聖                   | 中文表現——中作文の基礎                     | 南雲堂       | 紹 文周                    | はじめての中国語<br>文法                  | 明日香出版社 | 田中 英夫                    | 會話で學ぶ 初級中国語                       | 丸善プラネット |
| 吳 念聖                   | 一年生の中国語                          | 駿河臺出版社    | 紹 文周                    | 紹文周の中国語發音<br>完全マスター<br>(CD付)    | アスク    | 中国國際放送局(北京)<br>放送局)日本語部編 | 北京放送中国語初級講座<br>北京で聞く              | 東方書店    |
| 吳 梅編著                  | もって歩く中国語會話<br>BOOK               | 西東社       | 紹 文周                    | 紹文周の中国語ヒアリング<br>完全マスター<br>(CD付) | アスク    | 趙 怡華                     | CD BOOKはじめての臺灣語                   | 明日香出版社  |
| 高 信太郎                  | 超簡單まんが中国語<br>はじめての中国語入門          | 光文社       | 砂岡和子・趙 軍                | 中国語初級テキスト<br>新・売太の冒険<br>(CD付)   | 白帝社    | 張 一紅                     | もっと楽しく中国語<br>初級から中級へ<br>(CD付)     | ユニコム    |
| 江 麗臨                   | たった2文字で覺える<br>ラクラク中国語會話<br>(CD付) | 旭屋出版      | 瀬戸口律子                   | 完全マスター中国語の文法                    | 語研     | 張 一紅                     | 「寫真對應」トラベル<br>會話上海語上              | 三修社     |
| 小倉 憲二                  | 今すぐ覺える音讀<br>中国語(CD2枚付)           | ナガセ       | 蘇水・山内智恵美<br>黒坂 満輝       | 中国語テキスト<br>讀解の達人                | 白帝社    | 張 一紅                     | 海を旅する                             | 三修社     |

|                |                          |                     |       |             |                                 |                       |               |  |                              |                |
|----------------|--------------------------|---------------------|-------|-------------|---------------------------------|-----------------------|---------------|--|------------------------------|----------------|
| 張修             | 一帆                       | 大地の子 中國語名セリフ選 (CD付) | 日中通信社 | 秋合 裕幸・古屋 昭弘 | 李方桂記念漢語史に參加して                   | 開篇 22                 | 東方 263 (東方書店) | 奥村佳代子  | 『太平記演義』の言葉―『太平記』翻譯に現れた白話觀    | 關西大學中國文學會紀要 24 |
| 張 聰仁           | 役に立つ (CD付)               | ス中國語 (CD付)          | 國際語學社 | 荒川 清秀       | 今、なぜ中國語が元氣なのか                   | 東方 263 (東方書店)         | 奥村佳代子         | 唐語資料の二面性   | 或問 6                         |                |
| 張 兵            | 中國語ポケット百科                | 中國語通譯への道            | 大修館書店 | 荒川 慎太郎      | 西夏關連研究文獻目録 二〇〇二年版               | 瀚海蒼茫 (總合地球學研究所)       | 奥村佳代子         | 唐通事資料に見られる唐話の變化  | 中國語研究 45 (白帝社)               |                |
| 塚本 慶一          | 中國語通譯への道                 | 中國語通譯への道            | 大修館書店 | 井上 充幸       | 中國西北地域研究文獻目録 二〇〇二年版             | 瀚海蒼茫 (總合地球學研究所)       | 尾崎 和子         | 尾崎實先生を偲ぶ   | 或問 6                         |                |
| 塚本 慶一・高田 裕子    | 塚本式 中國語仕事術 やさしい會話 (CD付き) | アスク                 |       | 岩本 眞理       | 『南山俗語考』の受容について                  | 人文研究 54 (4)           | 郭 莉莉          | 先秦時代の儒家と道家の言語に對する見方について―言と意の關係から                               | 千葉商大紀要 41 (1・2)              |                |
| 馬 誼光           | グループ方式で學ぶ中國語中級編 中國と日本    | 東方書店                |       | 榎本 涉        | 講座 日本人の外國語習得 中世の日本語と中國語         | 歴史と地理 (通社) 567 (山川出版) | 神田 信夫         | 琉球と滿洲語史料   | 東方 263 (東方書店)                |                |
| 馬箭飛主編 蘇英霞・翟艷編著 | 中國語ランゲージスクール 入門 (CD付)    | 角川書店                |       | 閻 立         | 清朝の多言語制における同文館の位置づけ             | 法政大學教養部紀要 123         | 木津 祐子         | 『聖諭』宣講―教化のためのことば   | 中國文學報 66 (京都大學中國文學會)         |                |
| 馬箭飛主編 蘇英霞・翟艷編著 | 中國語ランゲージスクール 初級 (CD付)    | 角川書店                |       | 王 揚宗        | 徐建寅和傅蘭雅翻譯《化學分原》的一個譯稿本           | 或問 6                  | 工藤元男・松丸道雄     | 横田恭三氏の報告に對する質疑應答 (特集) 21世紀CIEプログラム關連シンポジウム―出土文字資料よりみた巴蜀・楚の地域文化 | 長江流域文化研究所年報 2                |                |
| 廣江 祥子・樓 志娟     | 見せて通じる中國旅行會話             | 成美堂出版               |       | 大島 吉郎       | 元代「中國(語)通」への指南書―『老乞大』           | 東方 261 (東方書店) 二〇〇二年   | 景 慧           | 魯迅『故事新編』の語りと連續―断絶と連續―語りの時間的構造についての一考察                          | 中國研究月報 57 (11) (通號 669)      |                |
| 船田 秀佳          | 英語がわかれば中國語はできる (CD付)     | 駿河臺出版社              |       | 大西 克也       | 古代漢語における地域的差異と相互交流―秦楚の出土資料を中心に― | 長江流域文化研究所年報 2 (早稲田大學) | 黃 英哲          | 戦後臺灣における「國語」運動の展開―魏建功の役割をめぐって―                                 | 慶應義塾大學法學研究會編『國語研究』75 (二〇〇二年) |                |
| 岡田袈裟男          | 唐話の受容と江戸の言語文化            | 國語學 54 卷 3 號        |       | 岡田袈裟男       | 唐話の受容と江戸の言語文化                   | 國語學 54 卷 3 號          | 黃 英哲          | 戦後臺灣における「國語」運動の展開―魏建功の役割をめぐって―                                 | 慶應義塾大學法學研究會編『國語研究』75 (二〇〇二年) |                |

黃 英哲  
街談巷談 アメリカの  
カの大國における  
中國言語・文學・  
文化研究と教學の  
現状

中國研究月報57  
(1) (通號 65)

黃克武著・中里見敬譯  
書評: Lydia H. Liu,  
『Translingual Practice:  
Literature, National  
Culture, and Translated  
Modernity』(China,  
1900-1937) (Stanford:  
Stanford University  
Press, 1995)

言語科學38 (九  
州大學大学院言  
語文化研究院言  
語研究會)

蔡 茂豐  
臺灣における日本  
のテレビ番組の視  
聴とその影響(特  
集 日本語の輸出)

日本語學22  
(12) (通號  
271)

崎原麗霞譯  
日中・中日翻譯テ  
クニック(含 中  
國語文)

沖繩大學地域研  
究所所報30

司 佳  
商人・僕人・通事  
和18世紀中國沿海  
洋涇濱語的形成

或問6

周 素芬  
日中兩國語におけ  
る感情言語表現

外國語學論集1  
(名古屋大學大  
學院生協議會)

鈴木 泰  
對照研究の可能性

日中言語對照研  
究論集5

鈴木 達明  
語り得ぬものへの  
ことば―『莊子』  
における言語問題  
と言説への意識に  
ついて

中國文學報66  
(京都大學中國  
文學會)

砂岡 和子  
中國の漢語新教材―  
カリキュラム定量  
化と言語學理論實  
踐

東方267(東方書  
店)

清格爾泰  
契丹小字釋讀問題

東京外國語大學  
アジア・アフリ  
カ言語文化研究  
所(不二出版)  
(二〇〇二年)

宋 燕  
日語與漢語的思維  
衝撞

お茶の水女子大  
學中國文學會報  
22

田野村忠溫  
中國の日本語(特  
集 日本語の輸出)

日本語學22(12)  
(通號 271)

中鉢 雅量  
民國時期言文一致  
實現への苦闘(上)  
―錢玄同と黎錦熙  
を中心として

名古屋外國語大  
學外國語學部紀  
要23(二〇〇二  
年)

富田 哲  
1905年臨時臺灣戶口  
調査が語る臺灣社  
會―種族・言語・  
教育を中心に

日本臺灣學會報  
(通號 5)

富永 一登  
『文選』李善注の  
活用―注引曹植詩  
文から見た文學言  
語の繼承と創作

六朝學術學會報  
4

西田 龍雄  
漢藏言語學雜考

言語學會報  
(大阪外國語大  
學言語社會學會)

花田 尊文  
『中國書道辭典』  
の正誤考異(その  
III)

文林37

花登 正宏  
明代小學書刊行者  
目録(小學書 初  
稿)

東北大學中國語  
學文學論集8

彭 國躍  
古代中國語におけ  
る『死亡』の社會  
的變異―『史記』  
言語運用の研究

社會言語科學5  
(2)

宮 紀子  
モンゴルが遺した  
本『翻譯』言語―舊  
本『老乞大』の發  
見によせて(上)

内陸アジア言語  
の研究18

吉田辰巳・  
大竹清敬・  
山本和英  
技術資料 サポー  
トベクトルマシン  
を用いた中國語解  
析實驗

自然言語處理10  
(1) (言語處理  
學會)

李 承英  
『玉塵抄』におけ  
る引用文獻―『韻  
府群玉』との比較  
分析

筑波應用言語學  
研究10

呂 萍  
現代中國廣告のキャ  
ッチフレーズに見ら  
れる言語的特徴

日本文藝研究55  
(1)

二、文字・訓詁

愛新 覺羅  
烏拉 熙春  
契丹小字的表意文  
字

立命館言語文化  
研究15(2)

阿辻 哲次  
漢字でヒツジ學

月刊しにか14  
(1)

阿辻 哲次  
日本人と漢字の接  
觸

紫明12

阿辻 哲次  
パソコンと漢字の  
「忘れ」

月刊しにか14  
(9)

阿辻 哲次  
知ると便利! 簡  
體字のしくみ

月刊しにか14  
(11)

阿辻 哲次・  
鈴木孝夫・  
紀田順一郎  
特別鼎談 現代日  
本人と漢字

月刊しにか14  
(4)

|                        |  |                                       |       |   |                                |                |   |   |
|------------------------|--|---------------------------------------|-------|---|--------------------------------|----------------|---|---|
| 池田 證壽                  | 篆隸萬象名義デ<br>タベースの改訂                         | 漢字文獻情報處<br>理研究 4                      | 神崎 龍志 | 似ても違う！<br>日本語と中國語<br>漢字は天才である   | 月刊しにか 14<br>(11)               | 菅井 紫野          | 『說文解字注』の<br>字義・字形解釋<br>の字に關する問題<br>（『定記』と『十<br>字路の記號』の場<br>合） | 中國文學研究 29<br>（早稻田大學中<br>國文學會）           |
| 池田 證壽                  | 包攝と分離―多漢<br>字文獻翻刻の問題<br>書評：白川靜『文<br>字講話 I』 | 情報處理學會研<br>究報告 107<br>京都民報（二〇<br>〇二年） | 神田 千冬 | 漢字の表音機能に<br>ついて   | 文學藝術 27（共<br>立女子大學文學<br>藝術研究所） | 鈴木 敦           | 『甲骨文編』にお<br>ける大文字域の分<br>析                                     | 茨城大學人文學<br>科論集 40                       |
| 一海 知義                  | 榎村陽太郎『略字<br>字典』序文                          | 略字字典                                  | 木島 史雄 | 古典における字體<br>のやくわり―『尙<br>書』隸古定字の考<br>たるもの                              | 中國 21（15）                      | 齊 冲天           | 論兩個語源   | 開篇 22                                   |
| 遠藤由里子                  | 顏師古注『漢書』<br>に採り入れられた<br>『漢書音義』             | 慶谷壽信教授記<br>念中國語學論集<br>（二〇〇二年）         | 兒島 慶治 | 日本・中國・臺灣・<br>香港における漢字<br>の共通性と相<br>違性                                 | 比較文化研究 62                      | 戰 慶勝           | 中國語の漢字と日<br>本語の漢字の比較  | 地域總合研究 31<br>（1）                        |
| 大西 克也                  | 古代漢字の解讀―<br>文字と言葉―                         | 文化資源學 1<br>（文化資源學會）                   | 子安 宣邦 | 言語論的・日本語<br>的批判―漢字論の視<br>點から  | ユリイカ 35（7）<br>（通號 47）          | 高久 由美          | 釋籒―古文字研究<br>における考古資料<br>利用の試み・その<br>二                         | 縣立新潟女子短<br>期大學研究紀要<br>39（二〇〇二年）         |
| 大橋 由美                  | 字書を引く                                      | 『中國語の環』<br>61（二〇〇二年）                  | 坂内 千里 | 『說文解字繫傳』<br>引『書』考   | 東方學 105（東方<br>學會）              | 高久 由美          | 古文字中に現れる<br>罔系の文字につい<br>て                                     | 縣立新潟女子短<br>期大學研究紀要<br>40                |
| 大橋 由美                  | 「持」について―<br>一篇手―「持<br>也」に見えぬ段玉<br>裁の解釋を中心に | 慶谷壽信教授記<br>念中國語學論集<br>（二〇〇二年）         | 鹽見 邦彦 | 『通鑑』胡注の訓<br>詁的特色とその價<br>値   | 東洋古典學研究<br>14（二〇〇二年）           | 高橋 俊           | 文字はいざなう―<br>國民政府期におけ<br>る識字教育の論理                              | 饗養 11（中國人<br>文學會）                       |
| 岡本 勳                   | 周祖謨による爾雅<br>の研究                            | 中京大學文學部<br>紀要 38（1）                   | 鹽山 正純 | He A. Giles の華<br>英字典 A Chinese<br>-English Dictio-<br>nary (2nd ed.) | 關西大學中國文<br>學會紀要 24             | 田邊 鐵・<br>高橋由利子 | 技術の最新動向   | 漢字文獻情報處<br>理研究 4                        |
| 岡本 勳                   | 周祖謨の『方言』<br>觀                              | 中京大學文學部<br>紀要 38（2）                   | 鹽山 正純 | S. W. Williams<br>の『漢英韻府』に<br>ついて（特集・辭<br>書）                          | 文明 21（10）                      | 鄭 高咏           | 馬に關するイメー<br>ジ―考察―中國の<br>ことばと文化                                | 言語と文化 8<br>（通號 35）（愛知<br>大學語學教育研<br>究室） |
| 小川 博章                  | 續曹植廟碑考―北<br>朝刻經書法との關<br>係について―             | 書學文化 4                                | 周 志鐸  | 大型字典俗字音義<br>補遺  | 開篇 22                          | 鄭 高咏           | 羊に關するイメー<br>ジ―考察―中國の<br>ことばと文化                                | 言語と文化 9<br>（通號 36）（愛知<br>大學語學教育研<br>究室） |
| 加納喜光・<br>久保輝幸・<br>吉野尙政 | 埤雅の研究（5）<br>中國<br>釋草篇（1）<br>博物史の一斑         | 茨城大學人文學<br>科論集 39                     | 飛田 良文 | 漢字の読みはなぜ<br>難しいか  | 月刊しにか 14<br>（5）                | 飛田 良文          | 漢字の読みはなぜ<br>難しいか  | 月刊しにか 14<br>（5）                         |
| 加納喜光・<br>久保輝幸・<br>吉野尙政 | 埤雅の研究（5）<br>中國<br>釋草篇（1）<br>博物史の一斑         | 茨城大學人文學<br>科論集 39                     | 飛田 良文 | 漢字の読みはなぜ<br>難しいか  | 月刊しにか 14<br>（5）                | 飛田 良文          | 漢字の読みはなぜ<br>難しいか  | 月刊しにか 14<br>（5）                         |

學界展望（語學）（二〇〇三年一月～十二月）



二階堂善弘 最近の漢字文獻處理の動向 新しき漢字漢文教育36

波多野太郎 駒字攷 開篇22

福田 哲之 阜陽漢簡『意韻篇』の文獻的性格―秦本との關係 20thematique別巻1(1700-2年)

福田 哲之 楚墓出土簡牘文字における位相 中國研究集刊呂號31(2002年)

福田 哲之 唐寫本『說文解字』口部斷簡論考 13書學書道史研究(書學書道史學會)

森實 一恵 甲骨文左右二字辨 東方學報75

吉池 孝一 貨幣文字考―西夏文字 東洋哲學研究所紀要17(2002年)

吉池 孝一 パスバ文字nとiの字形の混同 KOTONOHA 9

吉池 孝一 書史會要ウイグル字母表中のパスバ文字 10 KOTONOHA

李 運富 楚簡「言僕」字及相關諸字考辨 中國出土資料研究7(中國出土資料學會)

三、音 韻

岩崎 皇 中國語の韻母について 駒澤大學外國語部論集58

白田眞佐子 顧炎武『唐韻正』における入聲韻分割と『廣韻』 文學論叢(愛知大學文學會)128知

遠藤 光曉 中國語音韻史研究の課題 音聲研究 7

大岩本幸次 『皇極經世解起數訣』の「聲音韻譜」校異記 東北大學中國語學文學論集8

狩野 充徳 『文選音決』の「三」字音考 中國古典文學研究刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト)

姜信沅著、鋤田智彦譯 『洪武正韻譯訓』の「歌韻」のハンゲル表音字について 開篇22

後藤 秀幸 『語言自邇集』に登場する韻母「io」について 13 KOTONOHA

後藤 秀幸 第二版『語言自邇集』第三章(散語章)の「還」の發音について 8 KOTONOHA

小山 澄夫 『金瓶梅』の言葉あそび―王十九考 中國21(15)

佐々木 勇 日本漢音における反切・同音字注の假名音注・聲點への反映について―金澤文庫本『群書治要』鎌倉中期點の場合― 國語學53(3)(2002年)

佐々木 猛 『瓊林雅韻』二本 Ex Oriente 9(大阪外國語大學言語社會學會)

佐々木 猛 書評「花登正宏『古今韻會舉要研究』を読む」 集刊東洋學90

更科 慎一 所謂甲種本華夷譯語の漢字音譯手法の一端 人文學報(東京都立大學人文學部)341

周 錦樟 兒化廢除論 佛經音義引切韻考『韻府群玉』版本考(4) 版本文學・語學編)74(文學・語學編)開篇22

徐 時儀 『韻府群玉』版本考(4) 版本文學・語學編)開篇22

住吉 朋彦 『韻府群玉』版本考(4) 版本文學・語學編)開篇22

高山 倫明 字音聲調と日本語のアクセント 國語學54卷3號

張 樹錚 蒲松齡『日用俗字』語音研究 開篇22

陳 聖怡 1971年(2002年)日本學會的漢語近代音研究論著目録 東北大學中國語學文學論集8

東ヶ崎祐一 『說文解字繫傳』にみられる反切下字混用―梗攝入聲と曾攝入聲、および外轉一等韻と二等韻の間の 中國語學250(日本中國語學會)

戸田 昌幸 現代中國語の聲母に對應する日本常用漢字音との對照分析 麗澤大學論叢14

中野 琴代 使役表現における音韻の混亂について 下關市立大學論叢47(2)

中村 雅之 聲符と古音 KOTONOHA 3

中村 雅之 漢字音譯本『元朝秘史』の成立について KOTONOHA 4



|               |   |    |          |                                   |   |                                 |              |  |                   |
|---------------|---|----|----------|-----------------------------------|---|---------------------------------|--------------|--|-------------------|
| 中村 雅之         | 服部四郎氏の元朝<br>秘史に基づいて<br>典説について   | 5  | KOTONOHA | 平山 久雄                             | 詩曲の押韻から見<br>た「大」字二音の<br>變遷  | 中國語學25(日<br>本中國語學會)             | 山寺 三知        | 上海圖書館藏「和<br>文注音琴譜」にお<br>ける漢字音につい             | 瀧川國文19            |
| 中村 雅之         | 中期蒙古語の音節<br>末「」の音譯漢字<br>mongol(モンゴ<br>ル)の漢字轉寫<br>「忙(中) 駱(勒)<br>」をめぐって | 6  | KOTONOHA | 舟部 淑子                             | 『中原音韻』作詞<br>十法』の一定格・<br>四十首』について  | 中國文化61(中<br>國文化學會)              | 楊 曉安・<br>石 鋒 | 成阻、持阻與除阻<br>的時長比例 日本<br>人的漢語送氣 不<br>送氣塞音發音分析 | 北海道文教大學<br>論集4    |
| 中村 雅之         | 「華夷譯語凡例」<br>をめぐる覺書  | 7  | KOTONOHA | 古屋 昭弘                             | 出土文獻と上古中<br>國語の音韻につい  | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會)    | 吉池 孝一        | 中國上古音聲母<br>mについて                             | 3<br>KOTONOHA     |
| 中村 雅之         | 四聲通解に引く蒙<br>古韻略について   | 8  | KOTONOHA | 水谷 誠                              | 資料『附釋文互註<br>禮部韻略』におけ<br>る小韻の順につい  | 創大中國論集6                         | 吉池 孝一        | 元朝秘史の區分と<br>音譯漢字の分布                          | 6<br>KOTONOHA     |
| 中村 雅之         | 古代反切の口唱法  | 9  | KOTONOHA | 村山 昌俊                             | 『掌中漢語早引』<br>とその字音につい  | 國語研究66(國<br>學院大學國語研<br>究會)      | 吉池 孝一        | 韃靼館雜字の「マ」<br>について                            | 7<br>KOTONOHA     |
| 中村 雅之         | パスバ文字表記か<br>ら見た中期モンゴ<br>ル語の音聲   | 10 | KOTONOHA | Victor H. Maier・Tsu-Lin Mei・長谷部剛譯 | 翻譯 Victor H. Maier・Tsu-Lin Mei 共著 中國近<br>體詩の韻律論にお<br>けるサンスクリッ<br>ト起源(1) | 人文27                            | 吉池 孝一        | 漢語の精母系子音<br>を表す契丹小字に<br>ついて                  | 13<br>KOTONOHA    |
| 野澤素子・<br>重松 淳 | 「心的態度」表明<br>における日中兩言<br>語の韻律の特徴に<br>ついて                               | 11 | KOTONOHA | Victor H. Maier・Tsu-Lin Mei・長谷部剛譯 | 翻譯 Victor H. Maier・Tsu-Lin Mei 共著 中國近<br>體詩の韻律論にお<br>けるサンスクリッ<br>ト起源(1) | 鹿兒島縣立短期<br>大學紀要(人文・<br>社會科學篇)54 | 林 英津         | 再論「響」、「沫」<br>同源                              | 開篇22              |
| 野間 晃          | 閩東・閩北語音韻<br>書研究略史   | 12 | KOTONOHA | Victor H. Maier・Tsu-Lin Mei・長谷部剛譯 | 翻譯 Victor H. Maier・Tsu-Lin Mei 共著 中國近<br>體詩の韻律論にお<br>けるサンスクリッ<br>ト起源(1) | 社會科學篇)54                        | 林 英津         | 從漢藏語的比较、<br>龔煌城先生在李方<br>桂先生的漢語上古<br>音系上搭樓臺   | 開篇22              |
| 花登 正宏         | 學會展望1-2000<br>の我が國の音韻學<br>界   | 13 | KOTONOHA | 望月 眞澄                             | 音讀みのしくみ <br>音讀みのを通して<br>見る「言語の地層」を                                      | 月刊しにか14<br>(5)                  | 四、語<br>彙     |  |                   |
| 樋口 泰裕         | 北魏用韻考   | 14 | KOTONOHA | 森 博達                              | 日本書紀成立論小<br>結 併せて萬葉假<br>名のアクセント優<br>先例を論ず                               | 國語學54卷3號                        | 淺井 澄民        | 『(舊本)老乞大』<br>の疑問詞とその變<br>遷 「甚麼」と<br>怎麼」を中心に  | 大東文化大學外<br>國語學研究4 |
| 平山 久雄         | 『韻鏡』『七音略』<br>に關する轉圖の併<br>合・分離について                                     | 15 | KOTONOHA | 東洋學報84(4)<br>(東洋文庫)               |   |                                 |              |  |                   |

學界展望(語學)(二〇〇三年一月~十二月)

|       |                               |                                     |         |   |                   |       |  |                         |
|-------|-------------------------------|-------------------------------------|---------|---|-------------------|-------|--|-------------------------|
| 一海 知義 | 東西南北と東南西北                     | 圖書655(岩波書店)                         | 北川 修一   | 古代漢語の“耳”の變質―現代漢語“呢”への過渡期的特徴                   | 中國語研究 45(白帝社)     | 笹倉 一廣 | 『金瓶梅詞話』の金錢表現についての一考察―銀兩表現と合理性を求めての書き換え | 中國古典小説研究 8              |
| 井上 優  | 中國的外來語受容                      | 日本語學 22                             | 北川 修一   | 『日本書紀』における中國口語と倭習の問題                          | 和漢比較文學 31         | 地藏堂貞二 | 『清蒙古車王府藏曲本』言語研究『劉公案』の言語について            | 北陸大學紀要 27               |
| 植田 均  | 現代方言に残存する『醒世姻緣傳』中の語彙(4)       | 奈良産業大學紀要 18(二〇〇二年)                  | 遇 笑容    | 說“云何”   | 開篇 22             | 周 一農  | “望洋”現象的文化的語言闡釋                         | 中國語研究 45(白帝社)           |
| 植田 均  | 現代方言に残存する『醒世姻緣傳』中の語彙(5)       | 奈良産業大學紀要 19                         | 日下 恆夫   | 破鏡「向末」重圓―老翁「The Yoldo's Job」末尾の重譯された中國語への覚え書き | 關西大學中國文學會紀要 24    | 周 靜賢  | 該用“停”還是“停止”                            | 中國語教育 2(中國語教育學會)        |
| 王 瑞來  | 中國語指示代詞の性格に関する再論              | 千葉商大紀要 41(1・2)                      | 筒井 悦・紀美 | 中國語新語の中の日本語語彙についての研究                          | 日中言語對照研究論集 5      | 周 日安  | “角先生”音源試探                              | 中國語研究 45(白帝社)           |
| 大島 吉郎 | “怎麼”の意味分析―“不怎麼”形成立の要因         | 語學教育研究論叢 20                         | 吳 嶽權    | 日中兩言語における外來語の外來要素                             | 日中言語對照研究論集 5      | 舒 志田  | “自轉”という語の起源をめぐって                       | 或問 6                    |
| 大島 吉郎 | 『兒女英雄傳』校注本における“嗎”と“麼”の記述をめぐって | 中國語研究 45(白帝社)                       | 黃 當時    | 『現代漢語詞典』における同義語                               | 文學部論集 87(佛教大學文學部) | 徐 明眞  | 「葵」について                                | 千葉工業大學研究報告 人文編 40       |
| 小川 恆男 | 『人境廬詩草』中の新名詞                  | 中國古典文學研究創刊號(廣島大學中國古典文學プロジェクト研究センター) | 高 寧     | 漢語外來詞語源研究―從現代中國語文語源關係谈起                       | 中國語研究 45(白帝社)     | 白銀 志榮 | 動量狀語“幾次”について                           | 神田外語大學紀要 15             |
| 尾崎 實  | 『官話類編』所收方言詞對照表                | 或問 6                                | 黃 利恵子   | 現代中國語における語彙の記憶―漢報差とピンインの情報差が音聲記憶に與える影響の差異     | 多元文化 3            | 沈 國威  | 近代日中語彙交流―逆轉への道程                        | 關西大學中國文學會紀要 24          |
| 葛 金龍  | 意味機能に關する比較研究―肯定用法・否定用法の比較も兼ねて | 36 愛媛國文と教育                          | 後藤 秀幸   | 語言自適集に現れる滿州語                                  | 12 KOTONOHA       | 鈴木 誠  | 『水滸傳』開江州・祝家莊物語における“把頭”について             | 中國研究(麗澤大學中國研究會)         |
| 川島 優子 | 『金瓶梅』罵語考―吳月娘の罵語について           | 中國古典小説研究 8                          | 小林 光考   | 日中兩語における「Station」の譯語考                         | 大東文化大學外國語學研究 4    | 鈴木 基子 | 張愛玲「傾城の戀」の色彩表現                         | 研究紀要 38(日本大學經濟學部 二〇〇二年) |

|                     |                                      |                          |
|---------------------|--------------------------------------|--------------------------|
| 鈴木 基子               | 張愛玲「傾城の戀」と「金鎖記」における成語・諺表現の比較分析       | 研究紀要39(日本大學經濟學部) (二〇〇二年) |
| 鈴木 基子               | 張愛玲「傾城の戀」の語彙特徵                       | 研究紀要43(日本大學經濟學部) (二〇〇二年) |
| 曹 德和                | 明建設的語言文從哲學命題「話在說我」の需要                | 中國語研究45(白帝社)             |
| 曹 峰                 | 「賽金」・「賽錢」と神社の「賽錢」及び「辨當」の起源考          | 曙光2(1)                   |
| 孫 琦                 | 中國語の派生形容詞と日本語の形態副詞の對應                | ことは24(現代日本語研究会)          |
| 田中 寛                | 日中對照研究「う」の對應を中心                      | 大東文化大學紀要人文科學41           |
| 谷口 知子               | 『美理哥合省國志略』と『海國圖志』の變遷                 | 關西大學中國文學會紀要24            |
| 千葉 謙悟               | 地名の翻譯借用表の創造の主體をめぐって「オクスフォード」「牛津」を中心に | 東洋學報85(1)(東洋文庫)          |
| 中國語動作動詞研究會(プロジェクトD) | 中國語動作動詞の研究 搦                         | 中國學志 蠱號                  |

學界展望(語學)(二〇〇三年一月~十二月)

五、語法

|          |                                  |                               |
|----------|----------------------------------|-------------------------------|
| 山田 忠司    | 『給』の解釋に關する若干の考察                  | 中國文化61(中國文化學會)                |
| 山本 未英    | 擬音語による中國語と日本語の比較分析(2)            | 外國語學論集4(名古屋大學大學院生協議會)         |
| 俞 鳴蒙     | 中國語表現ノート(3)                      | 攝大人文科學11                      |
| 羅 奇祥     | 改革開放後在漢語中出現的源干日語的新詞語             | 慶應義塾大學日吉紀要30(言語・文化・コミュニケーション) |
| 李 亞明     | 漢語詞語的休眠、復蘇與新陳代謝                  | 中國語研究45(白帝社)                  |
| 李 抗美     | 中日同形語考                           | 橫濱商大論集37(1)                   |
| 劉 俐李     | 說『不』                             | 中國語研究45(白帝社)                  |
| 呂 興師     | 中國語の『象(似如)』について                  | アジア文化26                       |
| 呂 紅梅     | 些箇について                           | 大東文化大學外國語學研究4                 |
| 呂 明臣     | 中國語における日本語の漢語をめぐって               | 日本文藝研究55(2)                   |
| 梁 曉虹     | 近代漢語後綴『子』の考察之一——『子』附於量詞後         | アカデミア(文學・語學編)73               |
| 若林 建志    | 『無雙傳』の言語について                     | 言語と文化2(東洋大學)(二〇〇二年)           |
| 井上 優     | 『のだ』文と『的』構文                      | 中國語學250(日本中國語學會)              |
| 井上 優     | 文接續の比較對照——日本語と中國語                | 言語32                          |
| 井上 治・金度亨 | 蒙語老乞大、テキストのローマ字轉寫と和譯(卷之二)        | 開篇22                          |
| 王 志英     | 中國語における動詞の重ね型とその動詞について           | 京都産業大學論集30(人文科學系列)            |
| 遠藤 雅裕    | 『老乞大』各版本中所見的『將』把『拿』並論            | 中國文學研究29(早稻田大學中國文學會)          |
| 遠藤佳代子    | 強調を表す『連』都『連』也の考察                 | 中國語學中國文學部學教室紀要6               |
| 宇都 健夫    | 『是』不是『を用いた』確認性疑問形式               | 東京大學文學部中國語中國文學研究室紀要6          |
| 内田 慶市    | 近代歐米人の中國語法研究と品詞名稱の變遷初探           | 關西大學中國文學部紀要24                 |
| 于 克勤     | 現代中國語における慣用的表現型『很有+N』についての考察     | 聖母女學院短期大學研究紀要32               |
| 今井 俊彦    | 中國語における數量詞の意味と機能——二重目的語を中心として    | 中國語學250(日本中國語學會)              |
| 伊原 大策    | 『後悔』と賓語——語史的觀點から見た『後悔』の自動詞性と他動詞性 | 言語文化論集64(筑波大學現代學系)            |
| 秋山 淳     | 中國語の動詞分類と達成 (achievement) 表現について | 北九州中國言語文化研究論集11               |
| 荒木 典子    | 『實現・可能』の『V得』の成立                  | 開篇22                          |
| 石村 廣     | 表示使動義的趨向性複合動詞                    | 現代中國語研究第5期(朋友書店)              |
| 井田みずほ    | 副詞『オ』の取り立て機能について——『就』との比較から      | 中國語學250(日本中國語學會)              |
| 井出 克子    | AB型次元形容詞の構成について——感覺推移の角度から       | 中國學志 蠱號                       |
| 伊藤さとみ    | 中國語の可能補語                         | 日本東洋文化論集9                     |
| 犬塚 優司    | 現代中國語の語氣助詞『嘛』に關する一考察             | 退官記念言語學論集(二〇〇二年)              |
| 王 學群     | 限定語としての『V着』(zh)の                 | 日中言語對照研究論集5                   |

|       |   |                   |       |  |                                 |       |   |                         |
|-------|---|-------------------|-------|--|---------------------------------|-------|---|-------------------------|
| 王 崗   | 時を表す複文構造に關する日本語と中國語の對照研究―「たら・とき・てから」と「時候・以後」― | 日中言語對照研究論集5       | 勝川 裕子 | 授與構文における繪と所有領域「領土屬賓句」の解釋   | 多元文化4                           | 金 昌吉  | 現代漢語時間狀語の再分類  | 言語文化研究23(1) (松山大學學術研究会) |
| 王 克西  | 中國語の複文における主題に關する一考察                           | 外國語教育論集25         | 勝川 裕子 | 漢譯佛典の言語研究―『道行般右經』と異譯及び梵本との比較研究(2)  | 創價大學國際佛敎學高等研究所二年報(二〇〇二年)        | 栗原 千里 | 存在文中の動態助詞「了」について  | 櫻文論叢56(日本大學法學部)         |
| 王 占華  | 趨向補語再分析嘗試                                     | 北九州市立大學外國語學部紀要106 | 辛嶋 靜志 | A Trilingual Edition of the Lotus Sutra- New editions of the Sanskrit, Tibetan and Chinese versions (2)(KN:282.9)~287.10 | 創價大學國際佛敎學高等研究所二年報7              | 邢 文柱  | 「V了」と動作行為の開始終結  | 櫻文論叢58(日本大學法學部)         |
| 王 占華  | 動詞における結果含意の中日比較                               | 日中言語對照研究論集5       | 辛嶋 靜志 |  |                                 | 吳 紅哲  | 『三國演義』における待遇表現の研究(1)  | 久留米大學大學院比較文化研究論集14      |
| 王 占華  | 了の使用における語用論的解釋―「た」との對照の視點から                   | 現代中國語研究第5期(朋友書店)  | 木村 英樹 | 中國語のヴォイス   | 言語32(4) (大修館書店)                 | 黃 春玉  | 中國語における結果の意味を表す形容詞狀語の構文的側面から  | 岡山大學大學院文化科學研究紀要16       |
| 王 占華  | 了の使用における語用論的解釋―「た」との對照の視點から                   | 現代中國語研究第5期(朋友書店)  | 木村 英樹 | 授與から受動への文法化―北京語授與動詞の前置詞化をめぐって(特集)文法化とはなにか―言語變化の謎を解く  | 言語33(4) (大修館書店)                 | 高 靖   | 中國語の授受動詞と中國語の授受動詞の意味を表す動詞   | 日本文學論集27(大東文化大學)        |
| 大島 吉郎 | 中國語における「Spec」の概念をめぐって―助詞「過」を中心に               | 語學教育フォーラム8        | 木村 英樹 | パネル・ディスカッション―隣接領域から見た中國語學  | 中國語學25(日本中國語學會)                 | 左 思民  | 關於「了」+NL+出(了)+NL+(去)式中的「了」+出(了)+NL+出(了)+NL+出(了)の關係以及通過與從+NL+V+出(了)+NL+出(了)の比較 | 現代中國語研究第5期(朋友書店)        |
| 大島 吉郎 | 動詞重疊型に關する通時的研究(五)―《醒世姻緣傳》を中心に                 | 大東文化大學紀要(人文科學)40  | 木村 英樹 | 中國語における「再+助動詞」の使い方とその意味について  | 言語33(4) (大修館書店)                 | 齊藤 貴志 | 關於「了」+NL+出(了)+NL+(去)式中的「了」+出(了)+NL+出(了)の關係以及通過與從+NL+V+出(了)+NL+出(了)の比較         | 日本文學論集27(大東文化大學)        |
| 大橋 志華 | 「嗎」が用いられない疑問文―助詞「嗎」と「か」の對照研究                  | 日中言語對照研究論集5       | 許 金生  | 中國語における「再+助動詞」の使い方とその意味について  | Polynesian(立命館アジア太平洋大學言語教育センター) | 齊藤 貴志 | 關於「了」+NL+出(了)+NL+(去)式中的「了」+出(了)+NL+出(了)の關係以及通過與從+NL+V+出(了)+NL+出(了)の比較         | 中國研究11(麗澤大學中國研究會)       |
| 奧田 寛  | 「怎麼」の「主觀的逆接」用法―文型「S( )怎麼S( )」の可能性             | 姫路獨協大學外國語學部紀要16   | 許 金生  | 中國語における「再+助動詞」の使い方とその意味について  | Polynesian(立命館アジア太平洋大學言語教育センター) | 齊藤 貴志 | 關於「了」+NL+出(了)+NL+(去)式中的「了」+出(了)+NL+出(了)の關係以及通過與從+NL+V+出(了)+NL+出(了)の比較         | 中國研究11(麗澤大學中國研究會)       |
| 郭 春貴  | 從「看」與「看看」探討動詞重疊的用法                            | 中國語教育創刊號(中國語教育學會) | 金 昌吉  | 述謂關係與現代漢語「V得C」結構   | 言語文化研究22(2) (松山大學學術研究会)         | 齊藤 貴志 | 關於「了」+NL+出(了)+NL+(去)式中的「了」+出(了)+NL+出(了)の關係以及通過與從+NL+V+出(了)+NL+出(了)の比較         | 中國研究11(麗澤大學中國研究會)       |

|                                |   |  |   |  |  |   |   |  |  |  |
|--------------------------------|---|--|---|--|--|---|---|--|--|--|
| 周 媛                            | 朱 繼征  | 島村 典子  | 史 有爲                                    | 史 形嵐   | 時 衛國   | 澤田浩子・<br>朱春躍・<br>中川正之                   | 佐藤 博  | 佐藤 晴彦  | 定延 利之                                      | 佐々木動人  |
| 現代中國語文の情<br>報配置原則から<br>見たV在V文  | 中國語の動詞分類<br>新瀨大學經濟學<br>年報27                         | 動詞の前後に位置<br>する起點と經過點<br>中國語學250(日<br>本中國語學會) | 新聞標題句中的過<br>程狀態<br>中國語學250(日<br>本中國語學會) | 關於「她笑得像朵<br>正開的花兒」類V<br>得C<br>中國語學250(日<br>本中國語學會) | 中國語と日本語の<br>程度表現形式の様<br>相について<br>愛知教育大學研<br>究報告52(人文・<br>社會科學) | 形容詞連體脩飾に<br>おける文法と音聲<br>『日本語文法』<br>3卷1號 | 語順の研究―日本<br>語・英語・獨・佛・<br>西・露・中・韓國<br>語での比較<br>東京經濟大學人<br>文自然科學論集<br>116 | 漢語の人稱代名詞<br>の對應」をめぐつ<br>て<br>開篇22                  | 法<br>の文法、歸屬の文<br>法<br>中國語學250(日<br>本中國語學會) | 中國語における使<br>役と受益―比較方<br>言文法の觀點から<br>(二〇〇二年)        |
| 高橋彌守彦                          | 高橋彌守彦   | 高橋彌守彦  | 高橋彌守彦                                   | 高橋彌守彦  | 高橋彌守彦  | 戚 曉傑                                    | 鈴木 慶夏   | 杉村 博文  | 徐 峰  | 周 靜賢   |
| 位置移動詞「進・<br>出」と空閉語との<br>關係について | 了mと「了a」に<br>ついて―日本語と<br>の對照研究の視點<br>から(特集 時制<br>と相) | 趨向動詞「去」に<br>ついて                              | 位置移動動詞「進・<br>出」と空閉語との<br>關係について         | 移動を表す動補連<br>語「走回來」につ<br>いて                         | 關於漢語「動詞+<br>結構」架的考<br>察  | 現代中國語におけ<br>る文法範疇として<br>の典型例示           | 應および偏向指示<br>擇一對應と周遍對<br>應   | 存現文における<br>「有」の分類―<br>「在」との比較か<br>ら                | 關於現代漢語動詞<br>配價研究的幾點思<br>考                  | 「有關」「一次」和<br>「一趟」動量補語<br>中國語教育創刊<br>號(中國語教育<br>學會) |
| 大東文化大學外<br>國語學研究 4             | 語學教育フォー<br>ラム 8                                     | 大東文化大學紀<br>要 人文科學41                          | 大東文化大學外<br>國語學研究 2                      | 語學教育研究論<br>叢 20                                    | 中國語研究 45<br>(白帝社)  | 中國語學250(日<br>本中國語學會)                    | 中國語學250(日<br>本中國語學會)  | 千里への道(關<br>西大學大學院外<br>國語教育學研究<br>科紀要) 1            | 人文研究(神奈<br>川大學人文學會)<br>150                 | 名古屋大學中國<br>語學文學論集15                                |
| 中西 千香                          | 中島 吾妻   | 内藤 正子  | 椿 正美                                    | 張 麗群   | 張 超  | 張 國憲                                    | 趙 昕   | 武信 彰   | 竹越 孝                                       | 高橋彌守彦  |
| 發話の對象を引き<br>出す介詞(前置詞)<br>について  | 「哪兒」と「什麼<br>地方」―空閉表現<br>の特指疑問文                      | 言語分析における<br>形態の意味                            | 副詞「也」の用法<br>について                        | 一+借用量詞句式<br>的語義動因                                  | 中國語の結果複合<br>動詞の構造―<br>シニェル構造を用い<br>て                           | 漢語雙賓語結構式<br>的語法化渠道與元<br>句式語義            | 了の對比機能につ<br>いて  | 「很不」: 再説―<br>量的特徵に基づく<br>形容詞分析から                   | 翻字翻譯『清文助<br>語虛字』(1) 5<br>(5)               | 趨向動詞「去」の<br>日本語譯について<br>日中言語對照研<br>究論集 5           |
| 中國語教育 2<br>(中國語教育學<br>會)       | 中國語學250(日<br>本中國語學會)                                | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會)                 | 千葉商大紀要 41<br>(1・2)                      | 研究紀要65(日<br>本大學文理學部<br>人文科學研究<br>所)                | 北九州中國言語<br>文化研究論集 111  | 現代中國語研究<br>第5期(朋友書<br>店)                | 語學研究 103(拓<br>殖大學)  | マテシス・ウニ<br>ヴェルサリス4<br>(2)(獨協大學<br>外國語學部言語<br>文化學科) | KOTONOHA<br>9/13                           |  |



|       |   |                     |       |                              |                        |       |  |                              |
|-------|---|---------------------|-------|------------------------------|------------------------|-------|--|------------------------------|
| 中西 正樹 | 動詞句に前置される“有”と“又”の競合その回避―“有VP”文の分析をもとに                             | 攝大人文科学11            | 古川 典代 | “上”・“下”の認知的な解釋               | 關西大學中國文學會紀要24          | 孟 子敏  | 命令文・疑問文について<br>Brain Experimentを用いた脳波實驗    | 現代中國語研究第5期(朋友書店)             |
| 中原 裕貴 | 介詞“在”の“有無”について―“在”+名詞―構造における“在”の有無を中心                             | 日中言語對照研究論集5         | 古川 裕  | “可怕”“怕人”“和好吃”“難吃”等句法詞爲例      | 現代中國語研究第5期(朋友書店)       | 森 宏子  | 時間副詞“剛”の意味と機能                              | 中國語教育2(中國語教育學會)              |
| 西 香織  | 〈ヒト〉と〈モノ〉の對立  | 中國語學250(日本中國語學會)    | 方 經民  | 空間世界和語言空間認知研究                | 言語文化研究22(2)(松山大學學術研究會) | 森中 野枝 | “可不是”と“就是”                                 | お茶の水女子大學中國文學會報22             |
| 西山美智江 | 近代ヨーロッパ人の書いた中國語文法―Francisco Varo S『Arte de la Mandariná』(1703)を中心 | 關西大學中國文學會紀要24       | 方 美麗  | 〈方向の結びつき〉―日中對照分析             | 外國語教育論集25              | 山田留里子 | 中國語可能補語の否定形式について                           | 下關市立大學論集第46卷3號               |
| 西山美智江 | 補遺『官話文法』(1703)  | 或問6                 | 松江 崇  | 古漢語における禪母系疑問代詞目的語の語順變化       | 北海道大學文學研究科紀要11         | 山田留里子 | 複文におけるA類可能補語について                           | 下關市立大學論集第47卷2號               |
| 布川 雅英 | “把”構文―の述語動詞に付加される成分の意味的特徴   | 東アジア地域研究10          | 丸尾 誠  | “(S+)從/在+L+VP”形式の表す移動概念      | 日中言語對照研究論集5            | 楊 凱榮  | 關於三種不同類型的周遍性意義句式的領屬句遷移存在句―NP1+有+NP2”句的語義分析 | 現代中國語研究第5期(朋友書店)             |
| 橋本永貢子 | “個”在動賓組合中的功能及語法化  | 現代中國語研究第5期(朋友書店)    | 三宅 登之 | 先の“複數性”について                  | 中國語521(内山書店)           | 楊 曉安  | 日本語からみた常用“離合動詞”について                        | 言語センター廣報“language studies”11 |
| 橋本永貢子 | 非指示的名詞句における數量詞の働きについて   | 岐阜大學地域科學部研究報告12     | 三宅 登之 | 「論壇」AA地Vの意味機能                | 中國語522(内山書店)           | 楊 志剛  | 試論副詞做狀語帶地問題                                | 中國語研究45(白帝社)                 |
| 菱沼 透  | 對話における“我知道”“備知道”などの用法について   | 創大中國論集6             | 宮田 一郎 | 國語の動詞への招待―荒川清秀著『一步すすんだ中國語文法』 | 東方270                  | 雷 桂林  | “從A到B VP”構文再考                              | 中國語學250(日本中國語學會)             |
| 馮 蘊澤  | 現代漢語單句生成的理論模式   | 熊本學園大學文學部言語學論集18・19 | 村山 洋子 | 上到、去”の意味の“                   | お茶の水女子大學中國文學會報22       |       |  |                              |

Christine Lamarre 助詞への道「漢語の了、得、倒」の諸機能をめぐる状態變化、構文、そして言語干渉：中国語の【V+在+場所】構文のケース 大堀壽夫編『認知言語学II：カテゴリー化』、東京大学出版会(2007年)

Christine Lamarre 中国語の「V+在+場所」構文のケース 開篇22

Christine Lamarre 漢語空間位移事件の語言表達兼論述趣式的幾個問題 現代中國語研究第5期(朋友書店)

李 晶波 中国語の文末モダリティ「吧」に関する一試論—現代劇『雷雨』を資料として 愛知教育大学大学院國語研究11

劉 春卉 動+名、偏正結構形成原因考察(白帝社) 中國語研究45

劉 長征 漢語口語中的情態補語省略式(愛知大学國語研究室編) 言語と文化9

廉 德瑰 不…了について 日中言語對照研究論集5

盧 建 募物狀語的引申及主觀化渠道 中國語学250(日本中國語學會)

六、方言

岩田 禮 中國農村の言葉と文化 樋泉・若代編『現代中國への道案内』(2002年)

岩田 禮 中國の方言地理學 馬瀨監督・佐藤他編『方言地理學の課題』

岩田 禮 方言地圖の作成とその解釋—中國語言語地理學序説(續)— 金澤大学中國語学紀要第7輯

植田 均 現代中國語「方言辭典」(9) 奈良産業大学紀要18(2002年)

植田 均 共通語と方言(一)—方言語彙の地理的研究 奈良産業大学紀要19

大嶋 廣美 江西省鉛山縣太源畚語(畚客家語)の音韻體系 マテシス・ウニエ(1)(獨協大学外國語学部言語文化學科)(2002年)

夏木由紀子 古木由紀子 SARS下におけるシンガポールでの緊急時情報傳達の中國語方言臨時解 言語32(10)(大修館書店)

顏 峰 山東郟城方言的代詞 泰華小説『三聘姑娘』の潮州語 開篇22

佐藤 直昭 虚指の「伊」—上海方言「伊」に関する一考察 現代中國語研究第5期(朋友書店)

朱 彦 漢語複合語的語義結構分析 現代中國語研究第5期(朋友書店)

徐從權・石汝傑 安徽肥西方言的語音特點 開篇22

盛 愛萍 温州佛教地名與浙南語的互動關係 中國語研究45

石汝傑 明清時代吳語動詞選擇 言語科學38(九州大学大学院言語文化研究院言語研究會)

曹 漢江 現代漢語方言詞簡論 中國語研究45(白帝社)

曹逢甫・劉秀瑩 解除禁忌：身體部位禁忌的類說—漢英詞彙比較研究之二 現代中國語研究第5期(朋友書店)

竹越 美奈 翻譯 Cantonese Primer (一) 開篇22

張 其昀 江淮方言語法三記(白帝社) 中國語研究45

張 世方 北京官話的再分區 開篇22

趙 則玲 浙江畚語的形成及其特性考察 開篇22

永井 崇弘 『A FIRST READER IN THE MANDARIN DIALECT』と南京官話について 關西大学中國文學會紀要24

稻葉 明子 脚韻からみた木魚書「南音」の發生 開篇22

|                   |  |                                 |       |   |                              |                           |  |           |         |
|-------------------|--|---------------------------------|-------|---|------------------------------|---------------------------|--|-----------|---------|
| 西田 文信             | 香港粵語のダウン<br>ドリフトについて―<br>産出と知覚に關す<br>る音響實驗の結果<br>から―                       | 開篇22                            | 吉川 雅之 | 言語史資料として、<br>さらには研究史資<br>料として―<br>Kingsley Bolton &<br>Christopher Hutton,<br>The University of<br>Hong Kong 『West-<br>ern Linguists and<br>the Languages of<br>China, vols. 1-7,<br>Chinese Dictionaries,<br>First Series』中國<br>語西語初期刊文獻<br>集成華英・英華<br>辭書集成 第一期<br>(六七卷) | 東方272 (東方書<br>店)             | 相原 茂                      | 日中翻譯ルールを<br>めぐって   | 55        | 日本中國學會報 |
| 野間 晃              | 『切音新字』につ<br>いて   | 開篇22                            | 荒川 啓子 | 類義語のニュアン<br>ス196: 密切・親密<br>辭書   | 東方266 (東方書<br>店)             | 相原 茂・<br>荒川 清秀・<br>大川 完三郎 | 座談會 辭書を<br>『味方』につけて<br>中國語をものに<br>しよう! 『來春刊行<br>『東方中國語辭典』<br>をめぐる』 | 東方<br>272 |         |
| 波多野太郎             | Book Review 方<br>言與俗語研究讀後<br>―溫端政著『方言<br>與俗語研究―溫端<br>政語言學論文選集』             | 東方273 (東方書<br>店)                | 荒岡 啓子 | 類義語のニュアン<br>ス196: 密切・親密<br>辭書   | 東方266 (東方書<br>店)             | 荒川 清秀                     | 中國語辭典におけ<br>る語素のあつかい<br>について(特集…<br>辭書)                            | 文明21 (10) |         |
| 原瀬 隆司             | 蘇州方言詞語匯―<br>附音標  | 大東文化大學紀<br>要 人文科學41             | 荒川 清秀 | 體系から音を把握<br>する發音指導―<br>第二言語としての<br>中國語教授法を考<br>える   | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會) | 原瀬 隆司                     | 中國語辭典におけ<br>る語素のあつかい<br>について(特集…<br>辭書)                            | 文明21 (10) |         |
| 樋口 勇夫             | The Phonemes of<br>the Gaoxiong 高<br>雄 Dialect of Tai-<br>wanese           | 名古屋學院大學<br>論集(言語・文<br>化篇) 14(2) | 稻葉 明子 | 體系から音を把握<br>する發音指導―<br>第二言語としての<br>中國語教授法を考<br>える   | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會) | 樋口 勇夫                     | 中國語辭典におけ<br>る語素のあつかい<br>について(特集…<br>辭書)                            | 文明21 (10) |         |
| 彭 冰泉              | 安福方言小稱變調<br>現象考察   | 開篇22                            | 王 燕   | 體系から音を把握<br>する發音指導―<br>第二言語としての<br>中國語教授法を考<br>える   | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會) | 彭 冰泉                      | 中國語辭典におけ<br>る語素のあつかい<br>について(特集…<br>辭書)                            | 文明21 (10) |         |
| Timothy<br>Miller | Two Types of<br>Sonorant Initials:<br>More Evidence from<br>Taitan as Well | 開篇22                            | 王 硯農  | 體系から音を把握<br>する發音指導―<br>第二言語としての<br>中國語教授法を考<br>える   | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會) | Timothy<br>Miller         | 中國語辭典におけ<br>る語素のあつかい<br>について(特集…<br>辭書)                            | 文明21 (10) |         |
| 楊 誦人              | 粵方言話者の軟口<br>蓋鼻音脱落につ<br>いて  | 神戸女學院大學<br>論集49(3)              | 王 硯農  | 體系から音を把握<br>する發音指導―<br>第二言語としての<br>中國語教授法を考<br>える   | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會) | 楊 誦人                      | 中國語辭典におけ<br>る語素のあつかい<br>について(特集…<br>辭書)                            | 文明21 (10) |         |
| 横田 文彦             | 廣東語の授受表現<br>に關する一考察  | 開篇22                            | 王 硯農  | 體系から音を把握<br>する發音指導―<br>第二言語としての<br>中國語教授法を考<br>える   | 中國文學研究29<br>(早稻田大學中<br>國文學會) | 横田 文彦                     | 中國語辭典におけ<br>る語素のあつかい<br>について(特集…<br>辭書)                            | 文明21 (10) |         |

七、教育・學習

相原 茂 類義語のニュアン  
ス(最終回) 東方267 (東方書  
店)

奥田 寛 類義語のニュアン  
ス194(灌・倒) 東方264 (東方書  
店)

何 芳  
日本大學漢語初級教材管窺―由教學寫問題  
想到若千教材編寫問題  
40期大學研究紀要

甲斐 勝二  
映像および畫像を使った中國語教材「體會漢語」の制作をめぐって―福岡大學にて「art・E・E」を考へるために  
福岡大學人文論叢35(3)

甲斐勝二・磯田梨形・章海英  
福岡大學 共通教育語學中國語教育サポート教材「體會漢語」テキスト資料(試行本2003・3 V・1・3)  
福岡大學人文論叢35(3)

郭 春貴  
「誤用分析6講」發音について  
中國語525 (内山書店)  
郭 春貴  
「誤用分析6講」副詞、助詞、介詞、補語  
中國語527 (内山書店)

片野 英一  
十九世紀入華米英人が見た中國の傳統的識字教科書―British and Chineseの「三字經」英譯書を手がかりに  
アジア文化26

加藤 晴子  
日本語から考へる中國語作文  
中國語519 (内山書店) 527  
加藤晴子・小木島信・投野由紀夫  
學習語彙リスト作成の技法: 日中英の視點から  
應用言語學研究5

顏 幸月  
臺灣の大學の日本語教師の授業における對する意識使用期別の教師と學者の意識調査に基づいて  
廣島大學日本語教育研究13

金 蓮淑  
中國廷邊朝鮮族における二言語教育の現状と課題について  
Ethnolinguistics 32 (西日本言語研究會)

日下 恆夫  
「Zet's」學中國語みんな一緒にアーアーアー  
中國語520 (内山書店)  
日下 恆夫  
「Zet's」學中國語棚に上げるのも仕事のうち  
中國語521 (内山書店)  
日下 恆夫  
「Zet's」學中國語私はバカになりました  
中國語522 (内山書店)  
日下 恆夫  
「Zet's」學中國語正比例とグラフ  
中國語525 (内山書店)

日下 恆夫  
「Zet's」學中國語Zet'sを利用した中國語ヒンインと聲調トレーニングのための學習ソフトの検討  
大島商船高等專門學校紀要36

和田直規・榊田壽子・岡崎朋廣  
中國語の聲調學習における指導法の一案―V.T法による重音節・聲節・3音節の聲調學習  
駒澤大學外國語部論集59

胡 玉華  
中國語の聲調學習における指導法の一案―V.T法による重音節・聲節・3音節の聲調學習  
駒澤大學外國語部論集59

吳劍明・楊義・浦野義頼  
リスニングを中心としたウェブ版中國語學習システムの開発(特集: 第二言語習得とその支援に關する教育工學研究)  
日本教育工學雜誌27(3)

高 曉華  
日本學生學習漢語「把字句」偏誤分析  
北星學園大學經濟學部北星論叢集42(2)(通號43)

洪 芸  
第二語言學習者在口試過程中的心理及對策  
京都外國語大學研究論叢61  
輿水 優  
「基本語ノート」  
中國語525 (内山書店)  
輿水 優  
「基本語ノート」  
中國語527 (内山書店)  
輿水 優  
「基本語ノート」  
中國語520 (内山書店) 522

輿水 優  
「基本語ノート」  
中國語520 (内山書店) 522  
史有爲・田中紀子譯  
中國語教育に於ける語彙の位置―「強」「空」「坐」の4  
中國語教育研究その4  
應用言語學研究5

史有爲・張延瑞  
日本漢語能力測試中級標準認定初探  
明海大學教養論文集15  
史有爲・張延瑞  
中國語の比較文―日本人學生が比較文の問題點  
中國文化論叢12 (帝塚山學院大學) 中國文化研究會

下定 雅弘  
中國語の比較文―日本人學生が比較文の問題點  
中國文化論叢12 (帝塚山學院大學) 中國文化研究會  
車 麗  
日本語話者の中國語發音傾向に關する調査―子音と母音の關連性から  
中國語教育2 (中國語教育學會)



西川 和男  
結果補語・方向補語・時量補語の誤用例文とそれに対する教授法について

許山 秀樹  
大學授業と連携したネットワーク型中国語単語学習支援システム構築の第二言語の学習支援―母國語以外の文字・音聲言語の習得を支援する方法とシステム)

久田麻實子  
漢字を使わない中国語授業の試み

平井 和之  
「中国語入門」名詞句、動詞述語文

平井 和之  
「中国語入門」は「有」在

平井 和之  
「中国語入門」名詞述語文、形容詞述語文、主題

平井 和之  
「中国語入門」連動文、助動詞

馮 赫陽・許山 秀樹・小西 達裕 他  
大學授業と連携したネットワーク型中国語単語学習支援システムの構築

馮 富榮・杜 英起 他  
日本における中国語の教育について(1)

藤井 玲子  
中国語初級学習者の可能表現の習得に關する縦斷研究と誤用分析

古川 典代  
世界各國の中国語教育事情および中国漢語教師短期研修プログラム」全容

古川 典代  
ソフトウェアプロトタイプや映画・ドラマなどを素材として

丸尾 常喜  
「精讀」魯迅《兔和猫》

丸尾 誠  
文法事項の体系的な理解を旨とした中国語教授法について

三宅 登之  
「語法6講」中国語の品詞はいくつあるか

三宅 登之  
「語法6講」中国語の品詞の決め方

三宅 登之  
「語法6講」辭書の品詞表示

三宅 登之  
「語法6講」兼類について

三宅 登之  
「語法6講」動詞と名詞の境目

宮田 一郎  
「語法6講」品詞決定の難しさ  
中国語の動詞への招待

守屋 宏則  
類義語のニュアンス195

山崎 直樹  
類義語のニュアンス193:以来・以后・之后・往後

楊 光俊  
關於第二語言教學

楊 志剛  
中国語の受動文とその教え方に關する一考察

李 延瑞  
現代漢語的「了」及其教學處理

陸 慶和  
「不」和「沒」的區別及其教學

劉 愛群  
「構造化輸入」在日本漢語初級階段教學中的應用―從「沒」的習得到教學活動設計

劉 長征  
漢語象聲詞研究與對外漢語教學

劉 長征  
第二語言教學中的文化解釋和語用分析

劉 乃華  
課堂焦慮感與中國語的學習成績―日本中國語學習者學習認知心理分析(2)

東方書局 265 (東方書店)

東方書局 263 (東方書店)

櫻美林大學紀要 1 (日中言語文化)

語學研究 102 (拓殖大學)

長崎縣立大學論叢 37 (3) (通號129)

中國文化論叢 12 (帝塚山學院大學中國文化研究會)

中国語教育 2 (中国語教育學會)

愛知大學文學論叢 127

愛知大學文學論叢 128

愛知縣立大學外國語學部紀要 35 (言語・文學編)



## 展 望

林 齊倩 『介引處所的介詞  
在的隱現』  
中國文化論叢12  
(帝塚山學院大  
學中國文化研究  
會)

魯 曉琨 『也』の位置誤用  
分析およびその解  
決法  
中國21(15)

六角 恆廣 『語言自邇  
集』か  
東方264(東方書  
店)

日本國內における中國語學の研究論文を發表して  
いる専門誌として、今年も以下のものが刊行された。  
『中國語學』(日本中國語學會)は、特にこの數年、  
國內における研究水準の向上と研究動向をよく反映  
し、語學部門の基幹的雜誌としての機能をそなえて  
いる。『現代中國語研究』は、松山大學の方經民氏  
をはじめとする在日本の中國人研究者によって編集  
され、海外からの投稿も受理し、その中にはかなり  
良質の論文も含まれている。史的研究・方言に強い  
『開篇』、近世語研究に特色のある『中國語研究』、  
近代東西洋の文化と語彙の接觸に重點を置いた『或  
問』なども引き續いて刊行された。また、東京外  
國語大學を中心とする中國語教育法研究者が全國に  
呼びかけて二〇〇二年三月に設立された中國語教育  
學會(初代會長は輿水優氏、第二代會長は依藤醇氏)  
からは、新規に機關誌『中國語教育』が發行されて  
いる。これらを通覽すると、二〇〇三年は、現代語  
研究の優勢がきわめてはっきりした年であったよう  
に思われる。『中國語學』二五〇號を例にとれば、  
掲載論文は全十七篇、うち音韻史に關する二篇を除  
き、残る十五篇はいずれも廣い意味での現代語文法  
を扱う。多少の變動はあっても、今後もこの傾向が  
續くのではないだろうか。以下、分野ごとの大まか  
な動きだけ觸れてみたい。

總説にあたるものとして、本來この展望の探検對  
象には含まれないが、二〇〇四年六月に北京大學中

國語言文學系現代漢語教研室編、松岡榮志・古川裕  
監譯『現代中國語總説』(三省堂)の出版を擧げて  
おく。近年の中國大陸における新しい研究狀況を踏  
まえた現代中國語概論である。辭典としては、二〇  
〇二年の白帝社、講談社に續き、依藤醇ほか編『中  
日辭典』[第二版] (小學館)が刊行され、種類の増  
加を實感させてくれる。幾種類かの中國語電子辭書  
も發賣されているが、基礎語彙から使用頻度の低い  
語彙まで同時に檢索結果として出現するため、入門  
段階で使用した場合の弊害もないではない。

文字・訓詁の研究は、特に『上海博物館藏戰國楚  
竹書』などの新出土文字資料が續々と解讀・公開さ  
れつつあり、今後かなりの期間にわたって活況を呈  
していくと思われる。語學の立場からは、大西克也  
氏が文字・音韻・文法を統合した研究をすすめてお  
り、傳統的研究・理論的關心の雙方に應えうる質を  
そなえた成果を國內外で發表してきた。福田哲之氏  
は、先秦資料を視野においた小學書の研究成果を發  
表しつつある。洪誠『訓詁學講義』全譯の出版は、  
日本國內での企畫として可能だとは想像もしていな  
かっただけに意外であった。原著の價值には定評が  
ある。

音韻分野では、龔煌城『漢藏語研究論文集』(二  
〇〇二年)の刊行を受け、龔煌城氏の上古中國語音  
韻研究の特色を、特に日本の讀者のために簡潔に紹  
介した林英津氏「從漢藏語的比較：龔煌城先生在李  
方桂先生的漢語上古音系上搭樓臺」が出ている。中  
古音については、平山久雄氏による、手を抜かない

仕上げの論文「詩曲の押韻から見た「大」字二音の變遷」がある。「大」の音は上古歌部の性質など關連する面が廣く、後學にとつてさまざまな探究の手がかりを得られる。方言の音韻をめぐつては、秋谷裕幸氏が、自らの手で記録したデータをもとに『吳語處衢方言（西北片）古音構擬』を刊行した。浙江南部吳語は、聲調交替規則の複雑さ、記述の難度の高さで知られ、音韻史研究者にとって多くの手がかりを與えてくれる重要な地域のひとつである。本書は、古方言音韻體系再構の試み、この地域の現代方言字音對照表、というふたつの面で利用價值を有するであろう。

最も活潑な研究が行われている分野は、現代語の文法・語彙であり、研究者の數・論文の數、ともに他を壓する。全體的傾向としては、認知言語學・日中對照研究の流れに屬するものが多い。従來からの傾向と同じく、形式文法による研究は稀である。

國際的にみても、現代語關係の論著は奔流の如く生産されつつあり、しばらく前までは充分説明できなかった現象に對して新しい解釋がつきつきと示され、二、三年以前の論文を引いて、「近年の研究では」と言い切ることは、危険でさえある。日本における現代語研究の隆盛を支えている背景としては、第二・第三言語として中國語を學ぶ人口の増加、中國語を母語とする話者を身近に求める機會の多さ、利用しやすい現代語コーパスの充實などを挙げられよう。それ以外に、理論言語學の研究者の關心が中國語にも廣がってきたこと、ここ二十年の間に日本

語學の水準が急速に向上したこと、も大切な要因である。『中國語學』二五〇號に掲載されている、日本中國語學會主催のパネル・ディスカッション「隣接領域から見た中國語學」の記録は、言語學の定延利之氏、日本語學の井上優氏、中國語學の木村英樹氏の發表をもとにまとめられたもので、今日の現代語研究の一つの方向性を示した。

そうした中から、木村英樹氏「『的』字句的句式語義及『的』字的功能擴張」(『中國語文』二〇〇三年第四期)をとりあげてみよう(この論文ははじめ「『的』の機能擴張」事物限定から動作限定へ」、「現代中國語研究」第四期、朋友書店、二〇〇二年、として日本語で公刊された内容に大きく改訂を加えたものである)。木村論文は、「小王在西單買的車」、「你都買的什麼」などに現れる「的」をとりあげ、それが名詞句「我的車」などに見られるような、事物に對する限定の「的」から派生し、「動作行為に對する限定を表す」であることを論じた。引用される豊富な例文、緻密にすすめられる論證、いずれの點でも魅力ある研究だと言えよう。また、木村氏が議論の基點に選んで批判を加えるのは、杉村博文氏「『的』字結構、承指與分類」(一九九九年)、小野秀樹氏「『的』の「モノ化」機能」(二〇〇一年)などここ數年來の論文であつて、ひとつの刺激によって連鎖的に新しい刺激が生み出されつつある、この分野の状況をうかがうことができる。

現代語研究のなかで、國內外を問わず、ここ十年で急速な發展をとげつつある領域が方言文法である。

國內ではクリスティーン・ラマール(Christine Lammere)氏による精力的な成果發表が目だつ。ラマール氏の研究は、補語の多様性を中心的課題として扱ったもので、現地で収集した方言調査データ(十九世紀の宣教師によるテキストの發掘も含む)、理論的・歴史的研究の蓄積、こうしたすべてを視野に置く點を長所とする。成熟の過程にある分野だけに、ラマール氏の論文はそれほど讀みやすくはないが、多くの示唆を受けることができるはずである。

中間報告的なまとめとして、「助詞への道—漢語の『の』、『得』、『倒』の諸機能をめぐつて」(大塚壽夫編『認知言語學Ⅱ：カテゴリー化』、東京大學出版會、二〇〇二年)、「Verb Complement Constructions in Chinese Dialects: Types and Markers, "in Hilary Chappell (ed.), *Sinitic Grammar: Synchronic and Diachronic Perspectives*, Oxford University Press, 2001.」の二點をあげておきたい。方言文法の研究は、過去に「中國語の特徴」と決めつけられてきた諸點が、實際には中國語のすべてにはあてはまらないことをつきつきと實證してきており、歴史文法・普通語文法との連携をはかることによつて、今後大きな發展が期待される。ただし、調査經驗のある者なら知るとおり、普通語研究と並ぶだけの質・多様性の例文を収集することは—特に文學の傳統をもたない方言について—非常にむずかしい。ここ數年、粵語・吳語を中心に、研究對象の方言を自ら話せる少壯研究者の手による記述研究が増加しつつあり期待される。それを支える存在として、香

港粵語などに關する體系的教科書が出現しつつあることも注意を引く。

歴史文法においては、元代に成立したと推定される古本『老乞大』発見・公開の餘波が續いている。それに關連して、元・明代の「蒙文直譯體」「元代硬譯公牘文體」などと稱されてきた資料群を扱う姿勢の違いも顕在化してきた。古本『老乞大』はもと

もと別言語で書かれた原典を中國語に翻譯したものであるとの見解も公表され、これから議論がありそうである。資料面において、蒙漢・滿漢對譯文獻の整理が進みつつあることは注意されてよい。これから數年のうちに、成果が示されることであろう。以上のほか、中國語學側からもっと積極的な反應があつてもよさそうな研究として、『正法華經詞典』（一九九八年）、『妙法蓮華經詞典』（二〇〇一年）などの著者辛嶋靜志氏による一連の漢譯佛典研究の成果を舉げておこう。漢譯佛典は、文法史の重要な研究資料として利用されてきているにも關わらず、インド・中央アジアにおける原典との對照作業、それぞれの譯經僧ごとに異なる意識的な文體選擇をめぐる分析、などは、中國語學の側でほとんどなされていない。二〇〇〇年からの Jens Braving (ed.), *Manuscripts in the Schoyen Collection. Buddhist Manuscripts*, Oslo: Hermes Publishing の逐次刊行な資料の條件は大きく變わりつつあり、中國語の音韻・語彙・文法すべての史的研究に、これから影響を及ぼしていく可能性がある。

現在、これまで普通話文法のみを扱っていた研究

者が、方言文法・歴史文法へと對象を擴大し、「中國語」全體を統合して觀察しようという傾向が各國で少しずつ現れ始めている。領域ごとの研究の特質を理解し、従来の優れた成果を慎重に吸収した上で、新しい總合が實現するよう期待したい。そのためには、史的研究・記述研究もかなり強さをもつことが必要である。

教育・學習は、一見したところ、質的な差が最も激しい分野かも知れない。學習人口の急増にともなつて、不勉強な編者がほとんど素手で執筆した、害さえありそうな學習書を平然と市販する出版社——原稿のよしあしを自ら識別できる編集者がいなくてはならないのに——もある中で、良質な新著も着實に増えつつあることを強調し、この分野のために冤を洗いしておく。中國語教育の現場で見出された疑問を核にしつつ論がふくらみ、その成果が再び教育現場へと有効に還元されていく循環は、日本の現代中國語研究に廣く認められる特色である。二〇〇三年の單行本では、荒川清秀氏『一步すすんだ中國語文法』がその一例になる。論文においては、たとえば王占華・有働彰子「了」の使用における語用論的解釋」などのように、初級中國語教育の現場にそのまま應用できそうな基礎的研究がいくつも出ている。第二・第三言語習得は、特に英語圏において膨大な成果を有するはずの研究領域であり、中國語についてもこれから大きな發展の餘地がある。ただ、いささか不思議なのは、日本人學習者の母語たる日本語が中國語學習にあたってどう干渉するか、という研究だけ

が目につくことである。筆者の乏しい初級中國語教育の經驗によれば、大學での中國語學習にあたって最も影響が大きいのは、高校まで第二言語として學んできた英語であり、決して日本語ではない。中國語のある言い方が正しいかどうか程度のこと、ネイティブならば誰でも答えられるであろう。なぜあんなものが正しくなせ別のものが誤りなのか、日本語・英語・中國語の三つを、あるいはさらに多くを、丁寧に縫り合わせて答えることのできる教育法研究の出現を待つ。

以上のほかに、日本の研究書を母胎として二〇〇三年に中國で刊行された翻譯のうち、太田辰夫著、蔣紹愚・徐昌華譯『中國語歴史文法（修訂譯本）』（北京大學出版社。原著は一九五八年江南書院）、賀登崧 (William A. Grootaers) 著、岩田禮・石汝傑譯『中國方言地理學』（上海教育出版社。原型となった日本語版は一九九四年好文出版）の二點につき、ぜひ觸れておきたい。前者は、中國語譯が一九八七年に出版されて以來、大きな影響を國際的に與えており、既に文法史の古典となっている。ただ、一九八七年版の譯文にはおびただしい問題點があり、さまざまな誤解の原因ともなってきた。新版は、佐藤晴彦氏を中心とする日本國內の研究者が分擔して提出した訂正意見を参考に全面改譯されており、質的に大きく改善されている。より正確な譯文をめざされた蔣紹愚教授に、深い敬意を表したい。後者は、半世紀以上も前に中國語方言地理學をほぼ獨力で構築したにも關わらず、中國大陸では全く無視され續

けてきたグロタース神父の業績を體系的に紹介した一冊である（岩田氏の執筆による日本語版卷末の「現代中國方言學主要參考文獻」は省かれている）。譯者の岩田氏・石汝傑氏は、ともに中國語方言の現地調査・文獻調査の豊かな經驗をもつ専門家であり、その協力によって實現した本書は、信頼度の高い譯文を中國の讀者に提供できているはずである。

最後に、現在の中國語學におけるいくつかの點について、感想を述べておく。

既に述べたとおり、中國語學の主流は、ここ二十年の間、普遍的な言語研究を志向する傾向を強めつつあり、急速に日本語學・言語學へと關心の對象を移している。それは同時に、かつて中國文學・中國哲學など關連分野との間に存在した連繫の稀薄化をも意味する。この原因としては、中國語學の主流が、傳統的な文學・哲學研究の世界で行われている文獻學的研究に興味を持たなくなっている面、他方で中國文學などの側も、中國語學で起きている展開にさして關心を示していないという面、その両方があるように感じられる。やむを得ない點があると感じつつも、文獻學の蓄積を全く無視した中國語史の論文、あるいは言語研究における進展を念頭に置かないことばに觸れようとする中國文學の論文、今後そうした傾向の著作が出てしまうのではないだろうかかと懸念される。

疎遠さの常態化と關連して、いまひとつ懸念される事態がある。各地の大學では、語學を専門としない研究者が、初級中國語の教育現場において責任を

負わされてしまう場合も少なくない。ここ十數年の急速な研究の進展について、利用しやすくまとめた手引きが現代語の研究者からは提供されていくことであろうが、中國語教育に責任を負われる立場の方々におかれても、近年の語學の研究・教育動向に一層の注意をはらっていただければ、新たな連繫を回復する方向へと向かえるであろう。

論文發表の機會が増大するにつれ、ほとんど先行研究を調査することなく、データ分析をきちんと行うこともなく、狭い範圍での知見のみにもとづいて書かれた論著が量的に無視できなくなっているのではないかとこの點は、これから語學部門がますます深化していくにあたって、いささか危惧される。また、文章表現の正確さや論理展開の順序にほとんど注意を拂っていないと感じられるものさえある。またことに僭越きわまりないことを承知の上で言えば、日本語論文以外においても、そのような状況が無視できない。各大學の研究指導の場などで、より積極的な助言がなされるべきではないだろうか。

より初歩的な問題として——自分とて例外ではないが——推敲不足・校正ミスの多さにつき觸れておきたい。二十年前まで、中國學の和文論文は、ほとんどすべて原稿用紙に手で書かれていた。通常の場合なら、淨書の段階で、自らの論文を最初から最後まで通讀する機會があったのである。しかし、筆記用具はキーボード、入稿は電子テキストという状態が一般化したことにより、部分部分を書き繼いだだけで、きちんと通讀しないまま公刊されてしまうこ

ともあるらしい。そのため、段落が奇妙な位置にある、前後が入れ替わるなど、文章の推敲が行き届かない例がかなり多く見受けられる。印刷段階で本来のフォントが別の文字へと置き換わり、校正漏れのまま刷り上っている例もある。一讀して推測のつくような單純なものならまだよい。本文の誤寫をとりあげているまさにその箇所、問題となっている字の「文字化け」が起きてしまっていたり、文法研究の證明を讀みずすんでいると脱文・錯簡があるらしく論旨が追えなくなったり、という事態もあった。いささか大げさに誇張して言えば、研究論文を讀むにあたって、先秦文獻や敦煌寫本を扱うのと同様の注意力が求められるようになってきたのである。

筆者の能力的な限界や不注意から、當然とりあげべきなのにとりあげられなかった重要な動きの數々があるに違いないことについて、讀者に罪を請いつつ、今年の展望を終える。

（平田昌司）